

## 「奈良の都の木簡に会いに行こう!」(日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンスプログラム)の開催

2017年8月22日(火)・23日(水)、子どもさん向けのプログラムとして、「奈良の都の木簡に会いに行こう!」(共催日本学術振興会、後援奈良県教育委員会・奈良市教育委員会)を実施しました。近年、奈良文化財研究所では、近隣中学校の職場体験や職場訪問の受け入れをおこなっていますが、木簡に特化したプログラムは今回が初めての試みです。

両日10名の募集に対し、予想をはるかに上回る応募がありましたが、抽選はおこなわず、プログラムの運営を工夫することで、最終的に計37名の小5から中2までの皆さんと、保護者の方々にご参加いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

プログラムは、説明、実習、見学等5つのプログラムで組み立てました。開講式の後、最初の「木簡に会ってみよう」は、木簡の観察です。説明は必要最小限にして、じかに本物をみることで、木簡を少しでも身近に感じてもらえたと考えました。

「木簡を探してみよう」と「木簡に触れてみよう」は、現場から持ち帰った土を洗浄・分別して遺物を探し出す作業と、収蔵庫に保管してある木簡の水替え作業の体験です。木簡がどれだけ多くの労力に支えられて今あるのかを知ってもらえたようです。

2つの作業の合間のお昼には、奈良パークホテルのご協力で、木簡に登場する食材で復元された古代食を味わいました。次の「木簡を読んでみよう」は、1961年出土の平城宮第1号木簡、いわゆる寺請木簡の手作り模型による木簡解読体験です。私たちがどうやって普段木簡を読んでいるか、手の内もあか

しながら、木簡解読に挑戦してもらいました。

最後は、解読した寺請木簡が出土した、第一次大極殿院北側の大膳職推定地のゴミ穴の跡を訪ねるツアー「平城宮に出かけよう」により、木簡づくりの1日のプログラムを締めくくりました。

(副所長 渡辺 晃宏)



プログラムのポスター

## 第2回文化財方法論研究会の開催

立体物である文化財の形を記録する方法として、3次元計測の方法が近年、取り入れられてきました。奈良文化財研究所においても、文化財の計測は研究や保護の基礎として設立まもなくより研究が進められてきました。

従来、専門的な技術と特殊な道具が必要であったこれらの技術ですが、汎用の機材や低価格の機材により複数の技術が現実的に利用可能になってきました。特に、コンピュータービジョンと呼ばれる機械に視覚を持たせるための技術により生み出された方法では、市販のカメラとコンピューター、それにソフトウェアを組み合わせることで対象物の立体モデルを作り出すことが可能になります。

文化財方法論研究会は現実的に利用可能な文化財の研究方法について立場を問わず、多様な方々と気楽に研究発表や技術の共有をおこなうことを目的として運営されている研究会です。私たちの研究室も参加しています。

今回は、写真を用いた3次元計測を中心に、利用の現状を紹介していただき、また使用方法に興味を持たれた方への初級・中級のハンズオンとして利用方法の講座をおこないました。参加者は大学や自治体、企業の研究者、個人で地域史の研究を進められている方、学生等幅広い参加者を得ることができました。今後とも、このような試みを通じて多くの人が利用可能な考古学の方法を広く共有していくとともに、興味ある誰もが参加できる集まりをもっていきたいと思っています。

(埋蔵文化財センター 金田 明大)



研究会の様子